

が ん ば

報 告 刊 行 部 会 友 小 育 三 島
報 告 刊 行 部 会 友 小 育 三 島
報 告 刊 行 部 会 友 小 育 三 島

今年一度感じたいこと

会長 山本 篤五郎

早いもので、ついこの間「今年度をかえりみて」というのを書いたように思っておりまして、いつの間にか、また同じものを要求されるようになってしまいました。あらためて今年度をふりかえってみて、私の無力と、怠けのためあまりにも為すことの少かったことを反省し、たまた申訳なく思うばかりです。

今年度は県民の大目標の「国体完遂」のため、他の活動が消極的にならざるを得ず、私たちの育友会においてもいささかその傾向がありました。また、自立をなすところ、地味な活動がつけられ、その成果が積みあげられて来ました。具体的なことからは、各専門部や町内からの報告がありますので、どうかよくごらんになって、それぞれの仕事をなさった方がたのご努力のあとを汲みとって下さい。

特に教養部の会報班のご尽力や地味ながらも重要な仕事をつづけられた研修班の活動が印象に残り

ました。生活部の安全教育指導班による、毎月五日の交通安全指導これは二中・二小とも進捗して毎月十五日の「交通安全の日」運動にまで広がりました。施設部も再三の陳情を行ない、白山地区町内会のご協力を得て市当局へ働きかけ、一歩ずつ改善の実現を見て来ました。

昨年完成した、本校最大の誇りであるプールの募金について、関係者皆さんの格別のご尽力によって、予定より早く目標額に達し、四月月分の募金を打切ることが出来ましたこと、会員の皆さんや地区の方々のご協力に心から感謝申しあげるところであります。

また、今年度は私にとって、全くの非力にもかかわらず、順着によって、市の連合PTA会長という大役を仰せつかり、全市的な立場から育友会活動を見ることが出来、いろいろと教えられることが多くありました。

各校育友会それぞれに大へん熱

心に、特色のある活動をやっておられ、あらためて敬服するとともに、お互いにもっと横の連絡をとり合って、一そらの活躍を期待したいと思いをいたしました。

また、当市では、学校の経常費に對する予算の割り当てが少いため、各育友会とも、その予算の大部分、七割から八割が学校後援費となつてゐる実情を以て、早急に完全公費負担が出来るよう、他町村の例をともしらべ、データーをそえて陳情を行ないました。今後と論として盛りあげて、年次のにも表現をはかるように努力する必要があります。

必要があると思ひます。めまぐるしく移り変わって行く今後の社会で「教育」がますます重要となつてきます。そして、学校・家庭・社会の協力、即ち育友会活動の重要性がますます大きくなつて来ることでしょう。今後一そらの活動を期待して今年度の反省といたします。

所 感

副会長 森本 定義

今年度は、会長の補佐役として任務を仰せつかり、この一年をすこしてまいりました。

会長さんはじめ、会員の方々と育友会の諸問題について話し合う機会も多くありました。やはり私たちが「血のかよった育友会」にしなければならぬといつも考えます。学校と家庭との間隔がもう少し身近かになつてほしいと思

うのです。もし子どもの教育の場を学校だけにまかせきりにしてはならないと親としての責任を私たちは感じなければならぬのではなして、いようか。子どもについて教師と親とがもっと連帯感をもつべきだと考えます。

自分の子ども、自分の学校を前に向き進めるために親としての自発的な協力が必要だと思ひます。育友会のあり方についても、各家庭が学校や育友会の役員にまかせていけばいいという考えをすててもう少し積極的に会に参加すべきではないでしょうか。

学校参観、学級育友会、町内育友会に出席する人が特定な人だけになつてはいけないと思ひます。思うままに、書いたのですが、この一年間、私にどれだけのことがやられたかは疑問ですが、無事ここまでこれたのも、会長さんをはじめ、会員の方々の御協力があったものと深く感謝しております。共に、今後ますます三小の育友会が発展することを心からお祈りいたします。

一年間をかえりみて

副会長 原 サダ子

私は四十四年度の副会長をおおせつかりましたものの、皆さん方のご期待にそえないまま一年間をすこしてしまいました。今年度は特別大きな事業はありません

んでしたけれども、山本会長さんや森本副会長さんがいろいろと育友会活動にお骨折りをいただきましたので、お陰で女である私はただ出席するだけで何のお役目も果たすこともできませんでした。

一年間をふりかえりまして、私には五月に研修旅行、六月に県PTA大会に出席させていたたいこと、それに本年度は団体の年次つたことといふんと思ひ出がいろいろあります。研修旅行で相浦小学校に行つた時、婦人部の方々が非常に熱心に活動していらつしやる様子を見聞きされ、私たち三小の母親も盛り上がりが必要だと思ひましたが、何ら私の力をさ覚えるばかりでございます。

でも今一番問題な一つに、交通安全があります。各町内では毎月五のつく日に交代で交通安全に出で下さつていますし、又いろいろの左行を行なつて子どもたちの指導に当たられてゐる模範町内もあつて、三小育友会も決して他に負けをとらない程であります。

今、市の連合PTAでも小・中・高学校合同でいろいろ子供の安全教育に力を注いでいらつしやいます。が、交通安全、児童の非行化防止など子供を守るため、みんなが協力しなければならぬ問題が多いようです。

プール募金もみんなのご協力で終わり、又次の事業が待っていることでしょう。みんなが三小の育友会を盛り上げていきたいものです。

一年間をかえりみて

校長 村田正二

「本年度も充実した年であったと、しみじみと感ずることができたら、この上ないしあわせだと思ふ。心の中に、「何か物足らなかつた」「もっとやらねばならぬ」とかあったのではなからうか」という想いもわいてきます。年度末になると、いつもこの二つの気持ちが胸の中をゆきまします。

第三小学校は、四十四年度も充実の年でした。学校としては、特別を対外行事もなく、見方によつては、平凡に過ぎてしまつたようでもあるが、四教科の研究にとりくむ職員の意欲や、自主的に勉強できるよになつた児童の力、更に地域社会の皆様方の教育に対する理解力とがあいまつて、内面的には、ほんとうの力を身につけたと言えるのではないのでしょうか。

十一月には、子ども銀行が第五回目の中央表彰を受け、銀行が九州ではたつた一校、全国銀行協会賞を受けました。市内小学校の児童会では、低学年、高学年ともに鳥原代表にえらばれて、県大会に出場し、また、図画や読書感想文、感想画などでも、長崎県で或いは西日本で優秀な成績をおさめ、数多くの賞状賞品を獲得しました。育友会で陳情していたたい丸施設改善の要望のうち二つがかなえ

られ、渡り廊下が改修され、ちり焼場が新設されました。また、永年の念願であつた窓枠改修が出来ず、インフルエンザが猛威をふるつた一月二月は、窓に農業用ビニールを張りめぐらして、寒いすきま風を防がねばなりませんでした。しかしこのようなことは本年限りでなくなり、四十五年度は改修が実現されそうです。

最後になりましたが、三年間いわたつて、地域の皆様方に絶大なご協力をいただいたプール募金が極めて順調に進み、十一月末をもつて打切ることが出来ました。これもひとえに教育に対する皆様の深いご理解のたまものと心から感謝申し上げます。

教育懇談会

について

1. P.T.A.総会の出席向上について
 ◎意識が低いためか、関心か薄いためか極めて出席が悪い。
 ・開催日を土曜日の午後か、日曜日にしたらどうか。
 ・行事内容を検討し、魅力あるものにす必要がある。
 ・事前に資料を配布して当日

両親学級に思う

2月15日

2月15日の日曜日に、年丁回の父親参加を中心とした両親学級が開かれました。折角の休養日に、子どもたちの教育のことを考えられて、半日を授業参観、教育懇談と過して頂きました。

さて、この日の出席率から申しますと、父親の出席率11%（11名）、母親の出席率34%（30名）計45%（42名）でした。2月15日に父親不在の家庭が40%からあり、そのため11%という低い出席率になつたと思われませんが、それ以上に、三小地区では従来教育面は母親任せだといわれ、その姿が、そのまま現われた感があり、今後この点改め、れば幸々と思ひました。

父親の教育に対する関心を高めたいものだと申します。

尚参観されました父親の方々には極めて熱心なご世代をになり子どもたちの学習の姿を参観され、また、教育懇談に於ても建設的な意見をのべられ、学校側にとつても大変有意義でした。

また子どもたちも父親の参観を、めずらしさのためばかりでなく、大変喜んでいました。今度も、何家庭かありましたが、両親学級も思われますが、それ以上に、三小地区では、の名のとおり、父親、母親ともに参観くださる。子どもの教育について話し合つて頂く。

意見を出しやすくする。
 ・予算の項目をわかりやすくする。
 ・アトラクションを取り入れてはどうか。
 ・役員選出のしかたも考えてほしい。

・学校P.T.A.の選出
 ・学級代議員としてどんなことをすればよいか、また年間の活動計画を作る。

の日の参観授業に関連ある話し合いをふくめてほしい。
 ・指導法についての理解を深めたい。

◎総会行事を魅力的にするにはどうすればよいか研究すべきである。
 ・給食費徴収について
 ◎現在二回にわけてはいるが、一回にできるものか。
 ・月はじめの五日間に徴収してはどうか。
 ・二回に分けてもらったほうがよい。

・実験的に出せるものは一回徴収してみたら。
 ・一回徴収の方向へ
 3. P.T.A.役員の意識高揚について
 4. 学級P.T.A.のあり方
 ◎現在不活発であり、年一回も活動らしいものがない。

・学級代議員としてどんなことをすればよいか、また年間の活動計画を作る。
 ・代議員研修会を開き活動のあり方について話し合う。
 （町内代議員会・学級代議員会）
 ※学級P.T.A.のあり方について研究しよう。
 5. 学校参観日について
 ・学年に応じた議題を考え、その日の参観授業に関連ある話し合いをふくめてほしい。

お知らせ

○卒業式
 三月二十日（金）十時開式
 ・九時理科室で入学式当日の記念フィルム撮影致しますので保護者の方は早めにお出下さる。
 ○修了式 三月二十四日（火）
 八時二十分開式
 ・修了証書の授与があります。
 ○入学式
 四月一日（水）九時開式
 ・受付を八時三十分より致しますので、保護者の方は子供同伴の上早めにお出下さい。
 ○始業式
 四月六日（月）八時二十分開式
 ・新一年生もお友達と一緒に登校させて下さる。

卒業おめでとう

第23回卒業生

手

六の一 三浦 啓美
わたしの手
しもやけだらけの手

わたしはこの手で
十一年と十一カ月 生きてきた。

去年もそうだった
しもやけができて
手ぶくろがはいらなくなったっけ

あと何年か 生きていく
いやそれ以上に
わたしはこの手で生きていくのだ

この手を もっともっと
だいにしよう
みんなに わたしの手は
「こんなのだよ」って
いばって 言えるように。

私の六年間の思い出

六の三 岡村 和枝

一年生になる一か月ほど前、お
かあさんにランドセルを買って
もらった。おかあさんは入学式当日
に買うつもりだった。そうすると、
来年までランドセルは売れないの
で店の人が安くしてくれるそうだ。
だけど、友だちはみんな買って
らっているのでも私はしかなかった。

男子九四名
女子二四名

だからおかあさんにせがんで買っ
てもらった。その時おかあさんは
「こい、じいちゃんのことよく
わたいやっけんね。こかんよかい
ほこうたいやっけんしっかり勉強
せえにやん。」といった。

一年にやん。一組で音楽を教
えるの聞いたらおかあさんは、私
に言うようにも言ってもつきんを
買ってくれた。ならっていた時の
ことはよくおぼえていないが、と
にかく家ではつきんをむちゅう
で練習していた。

二年の時と思う。体育館で音
楽会があった。私も出た。トライ
アングルともつきんをしていたよ
うだ。なにがなんだかわからず、
ただ、けんめいにしていった。
作文(読書感想文)を書いて、校
内テストの優秀賞の二つくらいあ
る賞状をもらった。作文は人魚姫
を読んだ書いたものだった。私が
残されて原稿用紙三まい分くらい
に清書をさせられた。今思うと
私も人魚姫になりたいたんかなりた
くないとか、すいぶんくどくど、
書きだしてて、また、人に話し
かけるように書いていたようだよ。

三年になった最初の日、先生が
転勤していかれた。何人いかれた
かは、おぼえていないが、私たち
の先生もいっしょにいかれたこと
はおぼえてる。その時先生は泣

いて私たちにわかれをいわれた。
「もう泣かないね。」と言いな
がらやっばり悲しそうだった。女
て泣き虫なんだなあと思
っていたが、そんなことを口に出すと
しつれいになるのではないかと
思ってた。

四年になった。三年の時の先生
が転勤された。私に言うように
うれしかった。私にこの先生ほど
うれいもすきにやれなかつたの
だ。

五年になる時、始業式の日には
がえがあった。これは、二年から
三年にかわる時もあったのだが、
一年から四年まで三組だったので
んどはわかるようにに神にも祈りた
いような気持ちだった。その一
方では、また三組のようにならな
った。そしてやっばり三組になっ
た。二年の時から親友としてし
あっていた人は四組だった。シ
ツクだった。が、四組と三組は教室
がとなりなのでよく合っていた。
六年になった。五月になるのも
またず修学旅行があった。熊本
だった。夜、ねる時にみんなを
しましても私はなかなか寝つな
かった。五組らしき人がさわいで
先生にしかかれるのを聞きながら
いつの間にかねてしまった。

いって私たちにわかれをいわれた。
「もう泣かないね。」と言いな
がらやっばり悲しそうだった。女
て泣き虫なんだなあと思
っていたが、そんなことを口に出すと
しつれいになるのではないかと
思ってた。

四年になった。三年の時の先生
が転勤された。私に言うように
うれしかった。私にこの先生ほど
うれいもすきにやれなかつたの
だ。

五年になる時、始業式の日には
がえがあった。これは、二年から
三年にかわる時もあったのだが、
一年から四年まで三組だったので
んどはわかるようにに神にも祈りた
いような気持ちだった。その一
方では、また三組のようにならな
った。そしてやっばり三組になっ
た。二年の時から親友としてし
あっていた人は四組だった。シ
ツクだった。が、四組と三組は教室
がとなりなのでよく合っていた。
六年になった。五月になるのも
またず修学旅行があった。熊本
だった。夜、ねる時にみんなを
しましても私はなかなか寝つな
かった。五組らしき人がさわいで
先生にしかかれるのを聞きながら
いつの間にかねてしまった。

もうすぐ卒業だ。なんだか将来
の事が心配でたまらない。一つの
仕事におちつくとなるとおかあ
さんが言うように、給料が多い所が
いいのだが、私は、いろいろを事
を経験してみたい。そして最後は
家庭の主婦となって子どものめん
どうを見ていたい。それは、中学

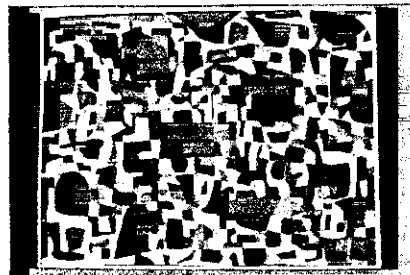
わたしの読書

六の四 森本 祐子

わたしが、はつきり本をよんだ
と、思いたせるのは、一年生ころ
だったと思います。

わたしは、そのころから、外国
の本に興味があり、代表的な本に
は、「シンデレラひめ」「白雪ひ
め」などが思い出せます。「空想力
豊かなわたしは、よむだけでは満
足せず、いろいろなことを空想し
ては、一人でうれしがったり、か
なしがたりしていました。今考
えて見るとおかしかなります。

三、四年生ごろになると、ま
んがにむちゅうになり、朝から夜ま



デザイン 6の2 森本 直美

で、まんがを見ていたのでべんき
ょうに力はいらないようになり
ました。

五、六年生になっても、まんが
はやめていませんが、まんがだけ
でなく、図書かんの本にもおもしろ
みをかんに、図書のかしだしの
ときはおもしろい。よく読む本は、
なりました。よく読む本は、
「あらしがおか」「若草物語」
「クオ・ヴァ・ティス」などか心に
こっています。特に、「クオ・バ
ティス」は、ローマ時代の
権力者、ネロころの、おう
らさ、それにたえたキリスト教徒
の心の広さを通し、人間の心
の美しさを感じました。

わたしは、こんどは、文学的な
本はもちろんな、理科的な本や社会
的な本にも、目をむけていきたい
と思います。

運動場
六の二 池田 和子

休み時、楽しく遊んだ運動場
体育の時、ボールやサッカー
をした運動場
運動会の時、いっしょけんめい
ふみつけて走った運動場
雨が降ると水たまりがで
何もさせなかつた運動場
私たちのため、いろいろと役立
てきた運動場
たのしい六年間を
いっしょにすごしてきた運動場
その運動場ともいよいよお別れだ。

入学の思い出

六の五 松崎 展子

四月一日に、私は、小学校に入学した。その時は、よく晴れた日で、さくらが、まんかいして、とてもいい入式だったことが記憶にのこっています。おかげで、いっしょに教室に、おぼろりと、パッと目についたのは、黒板に、書いてある先生の顔です。めがねをかけて、長い顔のように感じました。横に、「かとう先生」と書いてあったので、「ははん、これが、私たちの先生だな」と思いました。それから教室を見わたすと、紙でできた花が、とどろころにテープといっしょに、きれいかざってありました。私は、「きれいだな」と、つぶやきました。「そんなことよりも、自分の机を、さがさけり」と、いそいで、さがしました。私は、せが大きいので、後の方だろうと思つてさがすと、いちばん前に自分の名前が、かいてある机を見つけた。「あつ、いちばん前にある」と、いって、いそいで、そこに、すわりました。机を見ると、男の子が、すわっていました。それから先生が、けいいてこれれ、自分のしょうかいをされました。そのしょうかいのときを、かきたいけど、おぼえていないので、さんねんです。そのあと、先生が、出席を、とられました。みんな、名前を、よばれると、大きな声で、

「はい」と、返事をしているのでも、元氣な返事が、できるかと思はれていました。でも、女の子なので、あまり、大きな声で、返事をするのは、恥ずかしいような気がしてきました。それで、私は、ふつうの返事くらいでいいとおもひ、中ぐらゐの所で、「はい。」と、返事をしました。こんなことを、思い出しているうちに、なつかしくなつてきて、もう一度、一年生になりたいなと、思うときもあります。

卒業生をもつ

親の立場から

巣立ち

松下市兵衛

朝もやの中、何におどろいたのか裏山の楠の木から「ドッポッ」独特の声を残して十数羽のツグミが飛び立った。彼等もいく日か後、一杯の風にゆれる木立の中で感じとっているのか、ここ数日ことさらさわがしいようだ。

「来年も又新しい仲間をつれて無事に帰ってこいよ」そんな気持ちで、遠く小さくなって行く影を眺めながら、ふと今月小学校を卒業する長男に思いが走る。子供もこの頃、六年間の小学校生活に対するなつ

かしみと、きたるべき未知の中学校への期待と不安で毎日おちつかない様子だ。早めに買ってやっただけの制服を着て鏡の前にも「カッコイイ！」と叫びながらニヤニヤしている。馬子にも衣裳と道具を買ったもの、レッキとした中学生に見え、たのもしく感じられるから不思議だ。小学校を巣立つ子供をもつ親の実感はひしひしとみ

「どうだ？ 学校を卒業する感想は」と聞いてみる。「うん、六年間もかよいつめて少々あきがきていたとこそ、卒業してからは新しい請けの学生服を着られるし、自転車も買ってもらえるし最高だな」といやはやとこたえらるし、最高だ。持てた光や、仰げば尊し我が師の恩、と歌うのたろう。ほんとうに涙をポロポロながしながら歌の意味をかみしめかみしめ歌った自分の子供の頃の卒業式の事を思い出し感無量だ。

先生方はきつとどうにか飛べる様になつて巣立って行く小鳥を見送る親鳥の気持ちだと思ふが、親の心はずかしくないかぎりだがこれも時代の流れか……。最近の学校教育のむずかしさと先生方の御苦労はほんとうに大変だと感謝の気持ちでいっぱいだ。雨が降り出した。十二年前長男が生まれた日に植えたヒマラヤ杉はもう見上げるほどだ。子供もよく成長したものだといまさらな

から感じる。しずくが巣をつたつて音もなく落ちる。枝ごしに校庭が見える。始業ベルが鳴っている。あたりがとうごさいました。本当にありかとうごさいました。第一小学校校門

一歩前進

取土町 松本 博

「一〇門、一四二」この数字は前者が一年生入学時、後者が現在（六年三学期）の我が子の身長である。身長のおびるのに比例して精神、身体面とも、それぞれ成長してきた。

そのためには、子どもは子どもなりの努力を積みかさね、六年間の成果として小学校卒業という喜びを手中にすることが出来た。確かな足どりで一歩前進している。

平假名、片假名の一字一字を左んねんに練習した一年生、かけ算九九の暗記に終日カードをくって、いた二年生、わんぱく盛りりの三、四年、自己主張の感じられるようになった五年生、最高学年の六年生、目をとじると、六年間の出来事が走馬燈のように次々と浮かんでくる。

親も子も期待と不安のいりまじった気持ちで入学したあの当時に振り返ってみると、卒業の喜びが一層深く感じられ、学校当局には

勿論のこと、社会に対し、自然の本、草創創し心からお礼を申し上げた気持ちです。「みなさん、ありかとうございしました。山の松の木さん、野原の松こへ草さん、ありかとうござい。我が子の入学と同時に、PTA会員となり会員六年生であるはずの私は今まで一休をしてきたのたろう。

はずかしいことだが、六年間同じところで足踏みして一歩も進んでいない。PTAとは何たるや、その目的は？ どんな業務を等々……自分では充分わかっていながらも、りていたが、はつきりとその姿をつかむことが出来な。

勉強不足はなほだしい。これは、我が子と一緒に卒業というわけにはいかない。おやじは留年確実である。だが自分のおこないを反省し疑問をもったことは一つの進歩かもしれない。

私は留年確実をいふことに、残された時間を活用し、疑問を解明しようと考えた。そのためには、あらゆる角度から勉強すべきだと思ふが、私にとって漢字は催眠剤に等しく堅苦しい本などとても読めそうにない。そこで一つだけ心にきめたことがある。それは「一会の行事や集会には時間的にゆるされる限り参加しよう」と。言葉ではたつた一行だが実行するとなると、大変むずかしい課題である。

かしの課題である。

今まで「会の事には無関心だったことが」参加しなればとは思いながら何となく気が重くて」とかで敬遠しておられた会員の方で私の課題に共鳴して下さる方があれば力強い限りです。

一つの課題もなにかやりとおし会員としてまた社会人として一歩進むように努力したい。

各部だより

親鳥のねがい

生活部長 芥 孝夫

わが子がいよいよ学校を卒業して今月から社会の中に飛び立って行く。親としてこんなふうらしいことはない。体は注意して頑張りよと祈りたい。思えば昭和二十五

年私がハバロックスから復員した頃、既に兄は戦死、その兄嫁は他界、弟達が母と協力して大事に育てていた兄の遺児をそのまま引き受けた。わが子どころか嫁ももらわぬ先に三小のPTA会員としてお世話になり親になったつもりで育て、やっと中学生になった頃、不幸は再び、故あって今度は姉の子等二人を育てることになり生れ出るわが子と共に親としてのつとめを二十年間、思えば子等と苦楽をともにした今、人間を作るという

「大事な子供達のために」と願った。今年初めて長男が社会に出る、また下の子等を育て上げるためにまとも十年はかかる。いわば万年PTA会員である。兄嫁の三人の子等も今は立派になって大元で働いておることを思えばいいと気が出る。とにかく妻がよくやってくれた。わが家「お母さん万才」である。小学校から高校までの家の宝達「お母さんいってきます」「お母さん只今」と元気で通学するときの大きな声を聞きた

し「お父さん」である私も「よし俺も此の子等のためにお母さんうんと働いて来るぞ」とはげみが出て来る。

させる、今やと我が長男を就職させるについて「まあもしておけはよかった」「こう子供をしておけはよかった」等色々反省させられることばかりである。果して知らぬ遠い他国で良い友達を得て毎日元気で会社につとめてくれるらるか、我が家が恋しくなると途中で退めてくるような意地地なしてはなからうか、とお母さんが尚更心配が多いようだ。自信もって育てて来たのだから何も心配はいらぬ、あの子は必ずやる。とは云って見たものは誰れでも同じ心境だろう。そこで私の反省として強いて云えば、先ず第一に子供が赤ちゃんとときから学校を卒業するまでに病氣や怪我一つせず元気で育ってくれること。年一回の秋の運動会にせめてビリからでも良

いから級友と一緒に走ってくれること。病氣、入院のため我が子が出来ない運動会と親としてつらいことではない。小学校のときから何かスポーツを楽しませてやれば良かった。スポーツを愛好する子は性格も明るく意志も強くそして体格がめきめき違う。社会人になってから実力を更に発揮する。次に子供は親のなすこと云う事を必ず真似するもの。親が礼儀正しくれば子供も礼儀をおさまえる。先生が家庭訪問されるとその家の戸口に立ったときからすぐわかる。昔から「子供は親の鏡」と良く云ったもの。然し何としても子供がいつか大事なことば夫婦が仲のよい事から始まる。本年度第三小学校のよい子達へ一人の交通事故者も水死者もそして非行者も出なかった、学力はめきめき上っている。これだけよい子達の両親が仲が良く教育に熱心だった何よりの証拠だと感謝している。人の子も我が子と思ひ全町内交通安全指導に立つ親の姿は地域ぐるみの舗道であり、三小の力と思う。心から感謝している。

一年間を振り返って

教養部長 猪原 孝舜

昭和四十四年度もまもなく終ろうとしています。この一年、教養部長を仰せつかり、私なりに努力してきたつもりですが、全くの未熟で部長や会員の皆様にごさかし御迷惑をかけたことと思ひます。

しかし幸いなことに、部員ならびに先生方の御努力と、皆様の御協力によって、何とか教養部長の責を果たすことができ、うれしく思っています。

さてこの一年間、私たちは「会員の教養を高め教育に關する理解を深める」ことを根幹に各班とも、次のような目標をたてて活動してまいりました。

- ◎研修班——研修を積むことにより教育を少しも深めてもらうため。
- ◎会員の研修旅行計画、実施
- ◎両親学級、父親参観計画、実施
- ◎会報班——育友会活動の状況や学校の様子を知らせてもらうため。
- ◎育友会報「かんぽ」第十四号、十六号発行。
- ◎文庫班——読書することによって会員の教養を高めてもらうため。
- ◎「巡回文庫」計画、実施。
- 夏休み期間中の育友会図書
- 「巡回文庫」計画、実施。
- 童話研究発表会。

以上のように多方面にわたる活動で、やはりまだ、まだまだ努力不足、満足した点だけなかったのではないかと深く反省しております。しかし、その不足の点につきましては、会員の皆様のあたたかい御援助を仰け、部の活動は円滑に遂行することができました。

ここに部員を代表して深くお礼を申し上げます。

一年をかえりみて

施設部長 元島 和男

あれもなるとかならないものだろうか？これもこんなにしらないの？と思ひ乍ら十か月が済んでしまいました。

施設部の願いは、如何にして市当局を動かかし、校内の施設の補修改善を一日も早く実施させるかでありますが、財政の苦しい市の実情の中で、思うにまかせずあれこれと思ひ乍ら今年も実を結ばせ得なかったことを残念に思ひます。

その中で何年も陳情して来た本館より南校舎へ行く渡り廊下の改修が実現出来たこと、プール周辺を育友会の皆様の御奉仕によって整地し、学級園が出来たこと、元船津の橋本文吉さんの奉仕によって南の二階校舎のひさしのペンキ塗りが出来たこと等が印象に残り、有難く思っております。

三月中にもう一度奉仕作業で運動場とプール周辺の整地と美化を」と計画しております。五月に少し、学校側の都合で、五月に持ち越されましたが可愛い子供達が、いや将来の日本を背負って立つ子供達が感謝し乍ら勉等に励む環境を作り上げる。その為にも市の積極的な施策をこの方向に目をむけさせ、育友会員の尊い奉仕によつて、生きた教育を子供達の心に刻み込め、その仕事を受持つ施設部として努力の足りなかつた

施設部として努力の足りなかつた

交通指導に当って見て

徳久本森

ことを恥じ入り乍ら、昭和四十五年度こそはと意欲を燃やしており、施設部員を代表して深くお詫び申し上げます。

最近特に、交通量がひんげんになったので、育友会の生活部では、安全教育指導班を組織して児童を交通事故から守ろうと昨年度から交通指導を実施致してまいりました。現在校外では、毎月五日、十五日、二十五日に先生方と各町内の会員の皆様と共に指導をしております。その効果があってか大きな事故もなくこの一年間、無事に終わろうとしております。

これも、皆様方の御協力のおかげと思ひ、育友会員として、嬉しい事だと思っております。実際に街頭に出て直接自分の眼で確かめて見ますと、ますます交通指導の勉強をし、大切な我が子らの交通安全を徹底しなければならぬと痛感いたしました。

一、毎朝数人の児童が学校の忘れ物を取りに大変気を付けて、広馬場の危険な場所を通過しようとしています。この時は、信号を無視して走り出そうとする危険性があります。だから忘れ物をしないように前夜から学用品を良く調べておき、朝は早目に家を出て、落着いた通学が出来ますように習慣をつけなければなりません。



“急ぐとも一足のばして横断歩道”

二、登校の際、自家用車で児童を送られる事は結構ですが、横断歩道上で下車をされる父兄もありませんので、登校時は特に横断歩道付近は混雑し、危険性が多いので、できますれば横断歩道の手前で、下車をさせていただきますければ幸いと思ひます。また、横断歩道付近で方向変換を

三、集団登校を実行している班もある車もあるように見うけられますが、できれば、安全な場所での方向変換をして下さいませようお願いします。そして雨天の場合、校庭付近まで車で送られるのを見うけることがありますが、坂道付近は、狭いため通学児童に危険を生じる場合もあるうかと思ひますので校外で下車をさせていただきますればと思っております。

三、集団登校を実行している班も

それでは、わたしが二・三気づいた点を申し述べます。

二、登校の際、自家用車で児童を送られる事は結構ですが、横断歩道上で下車をされる父兄もありませんので、登校時は特に横断歩道付近は混雑し、危険性が多いので、できますれば横断歩道の手前で、下車をさせていただきますければ幸いと思ひます。また、横断歩道付近で方向変換を

あれは集団登校をしていても登校旗を利用してはいない班も見うけられますが、集団登校という学校規則(交通道徳)を守るように指導をして始めて、交通事故からのがれることができるのではないかと思ひます。

最後に、今後も児童が道徳(交通法規)を守り交通事故にあわぬよう先生方をはじめ御父兄の皆様方の良き御指導と御協力をお願いいたします。

プール建設

記念碑

建つ

身をきたえ心をきたえ大いなるゆめをもて

これは、三月中に出来あがるプール建設記念碑に刻みこまれる碑文です。

プールが完工して早や二年になるうとしていますが、その間、水泳指導を通して児童の体力増進等に多大の成果をあげつつあります。本年度中で、建設費の完納ができ、プール建設事業の遂行を記念して、プール入口の東側に、高さ一・六メートルの記念碑を作ることになりました。

碑文のように身心とも健やかな児童の成長を心から願ひたいものです。

編集後記

春とはいっても、まだ三寒四温のつづくこのころです。今年度、最後の会報をお届けしました。

今回は、卒業についての話題と各部の反省を中心にとりあげてみました。

いつも原稿をお寄せ下さる方々は、多忙の中にあつて、会報のため時間をさいて下さり、係一同心から感謝して居るところです。こういった会員の協力にそえた編集が、できたかと、いつも反省して居ます。今後とも「がんば」発展のため、皆様の御支援をお願いいたします。

最後に「がんば」編集にあつて御尽力下さった教養部長さん、会報班各位の御努力、係の先生方の協力を感謝いたします。

編集長 織田 均

